

学校概要

創立	8周年	学校長	栗原 秀樹	副校長	高橋 美光	学期	2学期制	児童・生徒数	525人
学級数	一般級: 15	個別支援級:	2	主な関係校: 横浜市立田奈小学校・横浜市立奈良の丘小学校					

学校教育目標

「学ぶ」「鍛える」「共に生きる」

- 生活や学習の基礎基本を通して、主体的に課題を見だし解決する力を身に付けた生徒を育てます。(知)
- 礼儀や規律を大切に、夢や希望、感謝の心をもった生徒を育てます。(徳)
- 心身共に健康で、自他の生命や自然を尊重する生徒を育てます。(体)
- 社会の一員としての自覚と責任をもち、よりよい社会を実現しようとする生徒を育てます。(公)
- 体験を通して自らの可能性を知り、広い視野に立ったものの見方や考え方を身に付けた生徒を育てます。(開)

学校の特徴

- 学区は閑静な住宅地の中にあり、保護者・地域の関心も高く、協力的であり、落ち着いた学習・活動の環境が整っている。
- 生徒自らが「学校行事・部活動」に「意欲的・自主的・主体的」に取り組むことができる。
- 教職員は意欲的かつ熱心であり、教職員相互がスキルアップできる環境にあり、人材育成しようとする組織ができています。
- 更に、教職員の日常の危機管理意識を高め、授業や教育環境のユニバーサルデザイン化をはかりたい。
- 「社会を生き抜く力」思考力・判断力・表現力の育成のため、コミュニケーション能力を高めたい。
- 学校運営協議会等の活動を通して、更に「地域とともにある学校」作りを目指したい。

学校経営中期取組目標

- 「誰もが安心して豊かに、楽しく生き生きと生活できる学校」を目指します。
- 「子どもにとっての最大・最高の学びの環境は、教職員自分自身である」ことを常に意識し、日々の教育活動を行います。
- ・生徒が主体的に取り組めるように「わかる授業」「魅力ある授業」を実践し、指導と評価の一体化を図るとともに、学習の「教材・方法・評価」について工夫・改善を進めます。
- ・生徒会活動・学級活動・部活動・ボランティア活動など、生徒の自主性・主体的な活動を重視し、集団への帰属感・自己有用感・自尊感情を高めます。
- ・生徒・教職員が安心して生活できる学校にするために、ユニバーサルデザインを意識して、安心・安全に配慮した学習環境の保持・整備と日常の危機管理に努めます。
- ・いじめ・不登校の未然防止のため、日常的な生徒との関わりや相談活動・家庭訪問を通して、生徒のコミュニケーション能力を育成し、「信頼」と「共感」に基づく生徒・保護者との関係づくりを進めます。
- ・優しさや思いやりの心を育む「心の教育」を推進するために、教育活動全体を通して行う道徳教育・人権教育の充実を図ります。
- ・家庭・地域および関係機関との連携、9年間で育てる子ども像の実現のため、小中一貫教育を更に推進し、社会を生き抜く力の育成に努めます。
- ・学校の実態や課題を具体的に認識するための学校評価アンケートを実施し、保護者・地域の方々の信頼と期待に応え、教職員がやりがいや達成感、子どもの成長を実感できる学校運営を進めます。
- ・学校運営協議会を通して、「地域とともにある学校」を目指します。また、地域学校協働活動本部の活動を更に進めます。

小中一貫教育の取組

あかね台中 ブロック: 横浜市立あかね台中学校・横浜市立田奈小学校・横浜市立奈良の丘小学校

9年間で育てる子ども像	○ 自らすすんで、学び、鍛え、共に生きることができる子ども
自校の具体的取組	「9年間の子どもの成長を見通した小学校、中学校と地域の連携推進」 ・9年間を見通した成長を考えた連携・相互理解のため、小中合同研修会を実施し、共通の学校評価から改善を進めます。 ・家庭や地域および関係機関との連携を推進することで、生徒一人ひとりが社会を生き抜く力の育成に努めます。 ・子ども像を共有しながら、きめ細やかな小中の情報交換を行うために定期的な専任会・教務主任会を設定します。

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力	「わかる授業」「魅力ある授業」の実践を通して、主体的、対話的で深い学びをめざし、自ら課題を解決する力を育むようにします。	①すべての教科で、授業のはじめに本時のねらいを示し、終わりに振り返りを行い、授業のユニバーサル化の定着を強める。 ②積極的に授業公開し、「思考力・判断力・表現力」の過程を大切に「学びを促す授業」への工夫と改善に努める。
豊かな心	道徳の時間等を通して、生徒一人ひとりが人権感覚を養い、自他の人権を尊重し、自らの存在を肯定できる生徒を育成します。	①道徳や教科の授業を通して、日常生活の中から自尊感情、自己有用感を育む取り組みを推進する。②人権講演会を実施し、より体験的に人権問題と向き合える機会を作る。③「人権作文」を通し、生徒自身が人権課題に向き合い、表現できるように指導する。④教職員の人権感覚向上のため、校内研修を充実させる。
健やかな体	保健体育科や家庭科等の食育指導、特別活動、部活動などを通して、健康の保持増進と体力の向上を目指して、自ら考え進んで安全に行動できる生徒を育成します。	①保健体育科が中心となり、他教科や教科外指導との連携を図りながら、3年間を見通した体力の向上や健康の保持増進を目指す。②新体力テストの結果考察を行いながら課題意識を高め「ITレ」での体力向上を目指す。③生徒が健やかな体づくりに向けて主体的に考え、実践できる力を育めるよう指導する。
キャリア教育	職業講話、職場体験、進路指導を通し、将来を見据えた勤労観や職業観を育み、社会人としての生き方について考える生徒を育成します。	①1年生では職業講話、2年生では職場体験、3年生では模擬面接を実施し、地域の方とも連携を深めてそれぞれの充実を図る。②図書館と連携をし、キャリア教育に関する図書を充実させ、生徒が必要な情報をいつでも得られるような環境を整える。また、保護者に対しても情報を発信できる機会を検討する。
学校運営協議会	地域学校協働活動本部の支援を受けて、学校と保護者・地域の方々が協働的に活動し地域との相互的な関係を深めます。	①学校が地域と教育目標を共有し、教育力の向上のため組織的・継続的な連携を図り、情報発信を推進していく。②学校がチームとして教育力・組織力を発揮し、地域と協働体制の確立し、共通のビジョンを持った取組の展開を行う。③子どもの健やかな成長と質の高い学校教育の実現を可能にするため、地域学校協働活動本部との協働活動を充実させる。
特別支援教育	特別な支援が必要な生徒に対し、特性に応じた支援ができるよう組織的に対応をすすめます。特に、特別支援教育コーディネーターや専任、養護教諭やスクールカウンセラー、学年主任との連携をベースに、担任を中心に寄り添うような丁寧な支援を行います。	①「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」「あかねの間記録簿」を柱とし、生徒の個性の把握に努める。②必要に応じて特別支援教育推進委員会を行い、特別支援コーディネーター、専任、養護教諭、スクールカウンセラーの話し合いを定期的に行い情報の共有を図る。③ユニバーサルデザインの共通認識がもてるよう教職員間での理解を図る。
児童生徒指導	マナー、ルールを守り、他人を思いやる心や人権感覚をもった生徒の育成を図ります。そのために教職員が連携をはかり、共通理解のもとに一貫した指導体制を確立します。	丁寧に生徒・保護者に寄り添いながら、教育相談、生徒指導を展開する。他人の気持ちを考えることができる生徒を育成し、安心して学校生活を過ごすことができる人間関係を構築する。
いじめへの対応	いじめの素地となる教職員の人権感覚を高め、いじめの未然防止と早期発見・対応をめざし、誰もが安心して生活できるようにします。	①日頃から気になる生徒の情報を共有し、組織的に支援する。 ②いじめ防止基本方針に従い、意図的・計画的・組織的にいじめの未然防止や早期発見、早期対応を図る。
人材育成・組織運営	意図的、計画的にメンターチームによる人材育成を充実させて、学習指導力や生徒指導力、学級経営力などを高めます。	①メンターチームを組織し、年4回以上の研修を行い、経験の浅い教員の育成を図る。 ②小学校との合同研修会や校内の授業研究を計画的に行いながら、授業改善に努める。